

年間第7主日

福音朗読 マタイ5・38-48

2023.2.19

カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

日本の社会において宗教を信じる、あるいは信仰を持つということは、大きく分けて二つの点で誤解されていることが多いように思います。一つは、何らかの宗教を信仰する人というのは、自分の努力ではなくて何か特別なやり方、道で、周りの状況を思う様に変えることができると信じている、ある意味では弱い人なのだということ。それからもう一つは、一つの信仰を持っている人は、自分の人生を生きるということではなくて、「このようにしなさい」って言われている通りに生きようとする、つまり脳みそを教団に預けて、あるいは自分自身の特徴を捨てて一種類の人間になっていく、そういうような誤解です。

でも、わたしたちは、この儀式を行えばとか洗礼を受ければ、神様がわたしたちに関係なくいろんなことを全部整えてくださるということを信じてはいない。神様と共に、思い通りにならない、神様でさえ思い通りにすることができないこの人類の心、あるいはいろんな状況の中で、神様がお造りになった自分自身を失うことなく、より良い恵みに出会い、神様と共に、また他の人と協力して恵みを生み出していく、良いものにしていく。そのような歩みを止めないために、信仰を生きようします。思い通りにならない人生や自分自身を生きる、それは一人ひとりの力を超えている、そういう意味では弱い者の集まりであるというのは当たっているかもしれませんが、でもそれは自分の弱さを自覚するからこそ――神様の恵みのうちに自分自身を点検し、そして出来ることを通して世の中に、また自分自身の人生に良いものをもたらしていく、その歩みを絶えずしようとしている。自動的に、何かの祈りで、1日1分祈っただけで、世の中が、あるいは自分の人生が変わるって、そこまで信じている者ではないわけです。自分の歩みを絶えず見直しつつ、与えられている良いものを良いものとして受け取っていくことができるように。それが信仰の道です。

今日の福音の中で「悪人に手向かってはならない」とか「敵を愛する」ということが呼び掛けられています。それってというのは、一つにはそこに示されているのは神様のお姿なわけです。神様はいくらわたしたちから感謝されなくて、そして侮辱される、今まで自分が与えられているものは当たり前、そして嫌なことが起これば神様のせい、そんなふうに言われながらも、でも恵みを注ぐことをおや

めにならない。そういう意味では、右の頬を打たれたら左の頬を出し、そして下着を取ろうとする者に上着まで与え、1ミリオン行くように強いる者と共に2ミリオン行く、というのはやっぱりご自身のお姿である。そしてそれを表わされたイエス様のお姿である。

でも、そのようにわたしたちが招かれているっていうのは、なにも敗北主義とか周りの人の言いなりに生きるとうことではなくて、自分自身の中にある悪いものというか、周りの人から与えられる悪い影響によって一人ひとりの中にある良いものがゆがめられないように、いつも絶えず神のお姿から、今の自分を見直しなさいということなんではないかと思います。

わたしたちが自分の人生の中でなんらかの恨みの気持ちあるいは復讐心ということの中に操られているということははずいぶんあるんです。具体的にあの人とか誰かとかいう場合もあるし、過去の体験だったり、あるいは、今恨みを抱いている相手を率直に認めてしまうならば自分の生活が成り立たなくなってしまう上司だったり夫だったり。でもその恨みの持って行き場を、無意識のうちにもっと弱い相手、子どもたちだったり、他の自分がそれをぶつけても自分に跳ね返って来ない相手に向ける、そういうような形で、あるいは過去の出来事に対する恨みだったら、その出来事はもうどうしようもないので、今の自分の行動にそういう影響が表れてしまう。そういうようなことの中で、わたしたち自身が出会ったいろんな悪い出来事、あるいは人から与えられた悪い体験っていうことの中に縛られてしまうということは往々にしてある。だけど、そんなふうにして一人ひとりの本来の良さを見失ってしまっちは、それこそ元もこもない。

だから、絶えず自分は今どうなのかっていうことを点検する、見直していく必要がある。しかしその時に自分の中にその物差しがないので、お造りになった神様ご自身の姿を、イエス様を通して、またイエス様が語ってくださる父である神様のお姿を通して、今の自分はどうなのかっていうのを絶えず点検する。人や神様を点検するために宗教があるのではない。自分自身の姿を絶えず見直し、そしてそこにゆがみがあるならば「どうぞ直していただけますように」と神様の恵みを願う。それが建設的な、あるいは本当の意味で人に命をもたらす信仰生活の在り方である、と言わなければならないと思います。

一人ひとり、わたしたちはどうでしょうか。その中で自分を見直し、また自分なりに今の生活に、自分の行動の中に、また社会に良いものを生み出すことができると希望するならば、そのためだったらいくらでもわたしたちは神様の恵みに出会うことができる。人や周りの出来事を自分自身が動くことなく思い通りに動かそうとする、そういう特別な術を与えられるために宗教を信じているの

ではない、ということを絶えず思い起こさないと、世間の人々が誤解しているような何の意味もない、無くてもいい、そういうものの中に宗教を貶^{おとし}めてしまう、わたしたちが大切にしようとしているものを貶^{おとし}めてしまうということになるんじゃないかなと思います。

今日、イエス様が大変難しいことをわたしたちに福音を通して提示されました。それが出来るから集まってるんじゃないんですね。出来ないながらも、でも今の自分がそれとは反対の方向に引きずられて恵みを見失っていないだろうかということを思い起こしながら、このイエス様のことばに応えていく。そのためだったらいくらでも助けてくださるという信頼のうちに、一人ひとりの中に今日祝福そしてご聖体を通して神様の恵みを頂きたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>